

---

# 外来透析患者による当腎センターの看護ケア評価

佐々木智美、佐々木明美、倉田みき子  
秋田赤十字病院腎センター

## Nursing care evaluation of this Kidney Center by the visitor dialysis patients

Satomi Sasaki, Akemi Sasaki, Mikiko Kurata  
Kidney Center, Akita Red Cross Hospital

### <はじめに>

透析看護には、安全に治療を受けられるように援助を行うだけでなく、居心地の良い環境の提供も求められる。また患者との関係も密接になることから看護ケアニーズが高いと考える。そこで、当腎センターの看護ケア評価を知り、今後の看護に活かしていく必要を感じた<sup>1)</sup>。

片田らはドナベディアン<sup>2)</sup>の質評価の枠組みに沿いⅠ「構造」Ⅱ「過程」Ⅲ「結果」の3つの領域で看護ケアの質評価指標を設定した<sup>2,3)</sup>。今回その指標を参考に当腎センターの看護ケア評価をⅠ「構造」を「施設、設備、環境について」Ⅱ「過程」を「透析看護について」Ⅲ「結果」を「実際に看護を受けた結果について」に置き換えて3つに分類したアンケート調査を行い看護ケア向上のために検討したので報告する。

### <Ⅰ研究目的>

当腎センターの看護ケア評価を知り看護ケア向上への指標を得る。

### <Ⅱ研究方法>

1. 研究方法 調査方法 質問紙調査法（留置き調査）
2. 調査場所 秋田赤十字病院 腎センター
3. 対象 外来透析患者81名(男性45名女性36名)  
平均年齢59.1歳
4. 調査期間 2001年6月11日～6月30日
5. アンケート内容 ドナベディアン<sup>2)</sup>の質評価の枠組みに沿った片田らによる「構造」「過程」「結果」の3つの領域での看護ケアの質評価指標を基準に肯定文で35の質問項目を作成した<sup>4-8)</sup>。
6. 分析方法 ①回答は、「4大いにそう思う」「3ややそう思う」「2あまり思わない」「1全く思わない」の選択形式とした。  
②結果は、回答を単純集計し4と3の回答を高い評価、2と1の回答を低い評価とした。

### < III 結果 >

回収率92.6% (75名) 有効回答率86.7% (65名) であった。

I「施設 設備 環境について」の結果で特に低い評価の項目は、⑧「看護婦の人数」40%、④「騒音」20%、①「清潔な寝具の提供」10%であった(図1)。

II「透析看護について」の結果で特に低い評価の項目は、⑦「家族を含めた指導援助」14%、⑧「看護婦の透析知識」8%、⑨「知識や技術向上への努力」8%であった(図2)。

III「実際に看護を受けた結果について」の結果で特に低い評価の項目は、⑩「情報 伝達」8%、⑧「信頼関係」7%、③「患者尊重」5%であった(図3)。

全項目中で低い評価10%以上の項目は「看護婦の人数」「騒音」「家族を含めた指導援助」「清潔な寝具の提供」の4項目であった。

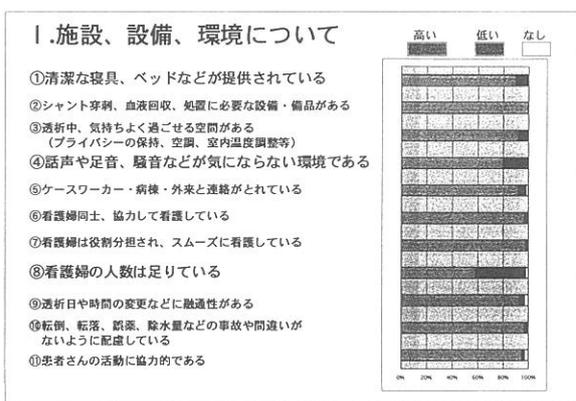


図1 I 施設、設備、環境についてのアンケート内容と結果

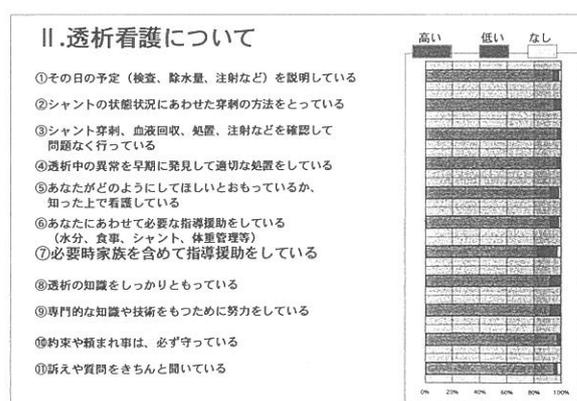


図2 II 透析看護についてのアンケート内容と結果

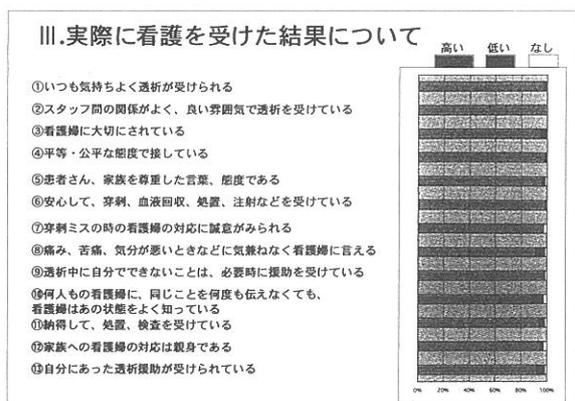


図3 III 実際に看護を受けた結果についてのアンケート内容と結果

### < IV 考察 >

当腎センターで特に評価の低かった4項目を中心に考察する。

#### I「施設、設備、環境について」

Iの中には評価の低かった4項目中3項目が含まれていた。全項目中1番低い評価は、「看護婦の人数」40%であった。ベット数が25床から30床となり患者数も増加し、それに伴い業務量も増

---

えている。限られた人数の中でも患者が満足できるように、誠意ある対応を心がけることが大切である。例えば、会話する時は、腰を降ろし患者と視線を合わせる。患者の側に行き、話や訴えに傾聴する。「ちょっと待って」を「何分待って」と約束するなど、対応を意識して変えていく必要があると考える。また忙しい時間帯が患者の透析中に集中しているため、透析中は翌日の準備は後にするなど患者中心の業務内容を検討していきたい。

「騒音」については30床のワンルームに全患者とスタッフがいて、機械の音などもあり静かな環境が提供しにくい。また、音に対しては様々なとらえ方や要望があると思われるので、患者が気になる音に対して今後調査し検討していきたいと思う。

「清潔な寝具の提供」については、1つのベットを他の患者と共有するため、汚れやしわのある寝具は、安心感や安定感が得られにくい。そのためより清潔で気持ちよい寝具の提供を求めていると考える。当腎センターでは、週1回の交換を基本としているが、少しの汚れでも取り替えることを前提に、透析終了時にはしっかりとしたベットメイキングをしていきたい。

Iの環境面での評価が低かったのは透析室で長い時間を過ごす患者に、環境においてより高い看護ケアが望まれているといえる。患者が不安不快になることのない、配慮ある環境作りが必要であると考え<sup>9)</sup>。

## II 「透析看護について」

「家族を含めた指導援助」について評価が低かったのは、患者は、透析を受けていることで様々な不安やストレスがあり、身近な家族の協力と支えが必要である。現在家族の依頼や問題がある場合に家族指導を行っているが患者と家族の関係を維持し支えていくために、必要な支援を知り、定期的な話し合いの場を設けるなど、家族と積極的にかかわっていく必要がある。4項目以外で少数ではあるが「看護婦の透析知識」や「知識や技術向上への努力」について低い評価があった。このことから透析看護における専門職としての知識と、安全で苦痛の少ない技術が望まれているといえる。

## III 「実際に看護を受けた結果について」

全体的にⅢは、高い評価で低い評価10%以上の項目はなかったが、最も低い評価は「情報、伝達」であった。“なぜ”に対する説明ができるように情報交換、業務上の連絡を密にすることは患者と良い信頼関係を保っていくために重要である。しかしⅢは人間関係に関する内容であったため回答しにくかったと考える。

今後もより質の高い看護ができるように自己研鑽し自己の成長に努力し、低い評価の項目を具体的にするため調査、改善して質の高い看護ケアを患者にフィードバックできるように努めていきたいと思う（図4）。

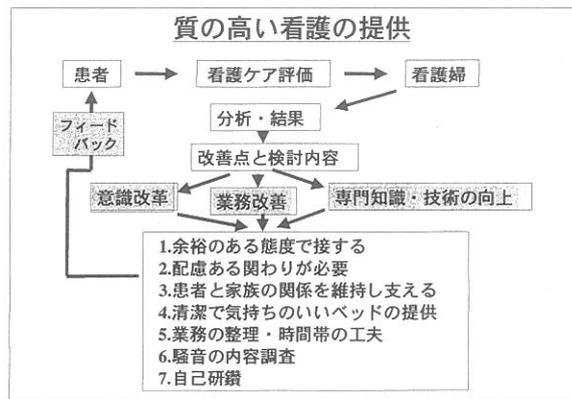


図4 質の高い看護を提供するための今後の展望

### < V 結論 >

1 低い評価10%以上の4項目は「看護婦の人数」「騒音」「家族を含めた指導援助」「清潔な寝具」であった。

2 看護の指標としては

- 1) より良い看護のため意識改革と業務の改善が必要である。
- 2) 「騒音」「家族を含めた指導援助」「清潔な寝具」について検討していく必要がある。

### < おわりに >

今回のアンケートでは当腎センターにおける看護ケア評価の実態を知ることができた。今後結果を活用して患者により良い看護ケアを提供していきたい。

### 参 考 文 献

- 1) 畑山和博：患者の望む居心地の良い透析室とは？、透析ケア7（1）43-45、2001
- 2) 片田範子、内布敦子、上泉和子、山本あい子：看護ケアの質の評価基準に関する研究．指標開発、看護研究、31（2）：3-8、1998
- 3) 近澤範子：看護ケアの質とその評価、nurse data：19（11）：9-13、1998
- 4) 内布敦子、河野文子、谷裕起子、和泉成子、片田範子、柴田秀子、三上由郁、青本さとみ、小竹雪枝、鈴木真知子、鈴山久代、磯村須眞子、遠藤俊子：看護ケア構造指標の開発と検討試案作成まで、看護研究：31（2）：9-20、1998
- 5) 内布敦子、河野文子、谷裕起子、和泉成子、片田範子、柴田秀子、三上由郁、青本さとみ、小竹雪枝、鈴木真知子、鈴山久代、磯村須眞子、遠藤俊子：看護ケア構造指標の試用と検討試案のプレテスト結果から、看護研究：31（2）：21-28、1998
- 6) 山本あい子、片田範子、大崎富士代、中込さと子、縄 秀志、小高恵実、上泉和子、竹崎久

- 
- 美子、大川貴子：看護ケア過程指標の開発、看護研究：31（2）：29-35、1998
- 7) 山本あい子、片田範子、大崎富士代、中込さと子、縄 秀志、小高恵実、上泉和子、竹崎久美子、大川貴子：看護ケア過程指標の検証、看護研究：31（2）：37-57、1998
- 8) 近澤範子、勝原裕美子、小林康江、塩塚優子、中岡亜紀、片田範子、粟屋典子、蝦名美智子、平尾明美：看護ケア結果指標と測定用具の開発、看護研究：31（2）：59-69、1998
- 9) 西 忠博：居心地のいい透析室とは—都会のクリニックの立場より—、透析ケア：7（1）：38-42、2001